



D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N° 61 juillet 2002 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

三重日仏協会2002年度総会と 『パリ祭』パーティー ティエリ・グットマン氏（三重大学）が記念講演

2002年度定期総会と記念講演、および恒例の『パリ祭』パーティーを、今年は7月14日が日曜に当たるため、まさに共和国革命記念日:le 14 juillet キャトルズ・ジュイエに開催することとなりました。

総会の議事以外は一般の方のご参加を歓迎します。お誘い合わせてご出席ください。

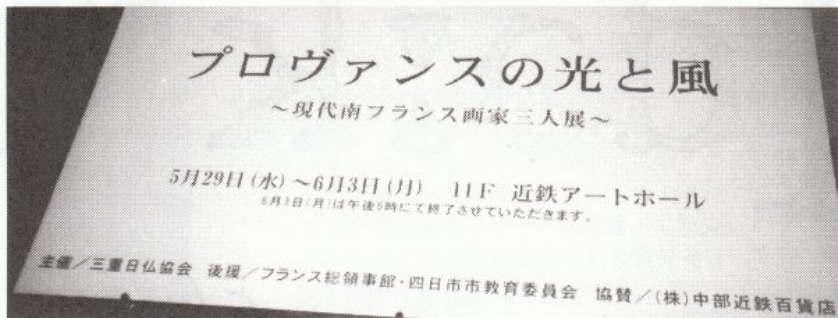
- 日 時 7月14日（日）受付開始 PM2:30
- 場 所 プラザ洞津 近鉄津新町駅西 電話 059-227-3291

スケジュール

- ① 総 会 3:00~3:30
活動報告、会計報告、事業計画、予算計画 積極的なご発言をお待ちします。
- ② 記念講演（公開・無料、基本的に日本語で） 3:40~4:45
Thierry GUTHMANN ティエリ・グットマン氏（三重大学人文学部専任講師）
『政治とユーモア…日本とフランスの政治漫画の比較研究』
—2002年フランス大統領選挙と2000年日本衆議院選挙を事例として—

「極右」勢力のルペン氏の予想外の得票で世界の注目を浴びた4~5月のフランス大統領選挙、結局シラク大統領の続投が決まり、ラファン首相氏名によって「左翼」とのコアビタシオンの状態は解消されました。その辺りをフランスの政治漫画はどう描いたか。また日本の政治漫画との違いは？気鋭のフランス人政治学者による興味津々たるお話が期待されます。

- ③ 『パリ祭』パーティー 5:00~6:30
おなじみのクイズ、ビンゴなど、今年の趣向をお楽しみに。
参加費 6,000円



記録『プロヴァンスの光と風』展

三重日仏協会創立15周年を記念して、5月末から1週間、四日市市の中部近鉄百貨店四日市店アートホールで開催された『プロヴァンスの光と風…現代南フランス画家三人展』は、出品した3人の画家が期間中会場に常駐し、それぞれ特徴のある約90点の作品は多くの来場者に新鮮な感銘を与えて盛況のうちに終わることができました。アルランディス、マリ＝ノエル・デレトワ、ヴィクトル・バッシの3氏は展覧会場だけでなく、1階エントランス付近の公開の場で即興の油絵製作の実技を披露したり、特にアルランディス氏は開幕前に四日市南高校美術部を訪問して、ナイフによる人物や風景画の技法を指導するなど、精力的な活動を行いました。また3氏は津市や四日市市のボランティアの家庭に分かれてホームステイし、三重日仏協会主催の歓迎会に参加するなどの交流も深めました。その模様を写真や新聞のコピーにより紹介します。



開幕レセプションで挨拶する。左からアルランディス、デレトワ、バッシの各氏
(会員・中尾隆光さん撮影)



近鉄百貨店エントランス付近での実技公開。多くの市民が見守った。(会員・中尾隆光さん撮影)

●県内在住のブラジル人が熱戦を繰り広げた。鈴鹿市の鈴鹿川河川敷で料理とワインを楽しむながら観戦する三重日仏協会の会員ら。四日市市内で



この日は午後2時半からアルゼンチン・ナイフ・エリヤ戦。アルゼンチン人のマルチン・ディアスさん(38)は「テレビを

31日夜、四日市市内の。画家たちは中部近鉄のレストランでフランス。鉄百貨店四日市店で3日の画家3人と三重日仏協。まで開かれる絵画展のため、来日していた。フランス人の画家アル

四日市での歓迎会の夜は世界杯・フランス＝セネガル戦の中継のさなか。会場のレストラン「サンマルコ」さんに頼んで特にテレビを設置してもらい、熱烈な応援を繰り広げたが、意外やフランス無念の敗退。

ランディスさん(56)は大のサッカー好き。ワイン片手にひと呑み大きい声援を送っていた。しかし、前半30分にセネガルが先制する。観衆を組んで無口。チャンスを逃すと頭を揺すっていた。鈴鹿市庄野町の鈴鹿川河川敷では2日、県内在住の南米出身者のサッカーチーム13チームが試合をした。家族や友人たちがビーチパラソルを広げ、バーベキューをしながら応援を送った。



会費納入のお願い

会費の納入が遅れがち傾向があり、会の財政がピンチにおちっています。

お早めに同封の振込用紙で、または直接事務局へ2002年度会費3,000円を納入していただくようお願いします。

フランスに生きる三重県人 (番外篇)

3年間パリの日本人学校で教鞭

紀伊長島国際交流協会の総会で経験談を講演

伊藤 和成 さん

紀伊長島町立西小学校の教諭・伊藤和成さんは1996年から3年間パリの日本人学校の先生として国から派遣され、ご家族とともにフランスでの生活を経験されました。パリ在住のピアニスト・伊藤隆之さん（どんく59号の本欄で紹介）とも親交があったとのこと。伊藤さんはその経験をもとに去る6月、紀伊長島国際交



流協会の総会で「パリの3年間の生活を通して」と題して講演され、興味深い内容が地元紙「南海日日新聞」（6月8日付け）に紹介されました。すでに帰国されていますので『フランスに生きる三重県人』シリーズ、今回は「番外篇」としてそのご講演の要旨をお伝えします。

赴任当初、フランス人の学生に仏語を指導してもらったが、授業は3回受けただけ。授業は再開されず語学力はそのまま上達することはなかった。妻の方が上達して住居の管理人とのコミュニケーションはもっぱら妻が担当。仏語を使うのはいつも行っていたパン屋ぐらい。電車の中で女性にハイヒールで足を踏まれ、思わず「メルシー」という言葉しか出てこなかった。変な東洋人だと思われたに違いない。

日本人学校は仏在住の日本人女性建築家が設計した。校舎はドーナツ型で教室は円形。1クラス15人ほど。学生もストライキ権があり、15人学級では指導効果が不十分とする理由でストを行った。そのストにガス屋、電気工事、バス運転手、郵便配達人、警察官が便乗し、町中が混乱する。ストは毎月ある。大雪の高速道路で前を走っていた車のドライバーが突然車から降りてそのまま車を放置していく。

ラテン民族のおおらかさはすごい。スーパーの買い物でレジを通す前に食べてしまう。レジを通さない人もいた。カネの計算に苦労した。例えば70は60と10、80は20の4倍という独特の数の数え方に慣れなければならなかった。街並みの保存には厳しく、中世から残る街の外壁にはいっさい手を付けず、内側だけを改良する。幼稚園からすでに落第制度があり、教師、PTA、生徒の3者で落第生を決める。学校内と社会の教育的役割がはっきりとしており、門の外で生徒がたばこを吸っていても、教師は注意しない。バカンスは5週間。われわれは交代で2週間の休みを取った。住んでいたのは3LDKのマンションで月25万円。すべて国費。私はフランスの一面しか見ていない。みなさんもぜひ訪れてほしい国だと思う。

「全国日仏協会の集い」

はじめてフランス大使館で開催

4月27日

現在全国に49の日仏協会（「フランス協会」などの名称も）があって、それぞれ独自に日仏交流活動を行っています。これまでも各地の協会の記念行事などに合わせて何度かの交流集会が開かれてきました。そしてこのたび「ここ数年の日仏関係のあらゆる分野における目覚ましい発展」を機会に、駐日大使モーリス・グルドー＝モンターニュ氏と、日仏会館理事長・澄田智氏の呼びかけにより初めて東京南麻布のフランス大使館・大使公邸で「全国日仏協会の集い」が（4月27日）開催されました。集いにはこの2月に創立された鹿児島日仏協会、年内発足をめざしている姫路日仏協会準備会を含めて33の協会の代表約100人が参加、本会からも井土副会長、滝沢事務局長が出席しました。

集いは午前中、G. モンターニュ大使から全国の日仏協会の活動への感謝と、政治・経済・文化面など広く最近の日仏関係についてのスピーチ、本野・元駐仏大使の日仏交流の歴史についてのスピーチに続き、各協会から交流活動の特徴や現在かかえている課題などについて次々と発言がありました。そして大使主催によるビュッフェ形式の昼食のあと、会場を恵比寿の日仏会館に移して、1. 文化、2. 日仏経済関係、3. 社会・教育の三つの分科会で中身の濃い討議が行われ、午後4時半澄田理事長の挨拶で閉会しました。



発言するG.モンターニュ大使
(フランス大使館提供)

『集い』に参加した印象から

各地のさまざまな活動に感心

●参加した33の協会のなかには、創立100年を超える老舗から、これから設立をめざす準備会まで、また大都市圏で経済交流を中心とする活動や、地方都市で景観や環境問題などをフランスに学んでいる協会まで、実にさまざまなタイプの活動が紹介されました。ほかには、マンガによる街おこしの交流（高知とアングレーム）、子ども中心の交流（岐阜とプザンソン）、車椅子バスケット大会による交流（北九州）など。またこれまでは都道府県レベルの協会が多かったのですが、近ごろでは市レベルから、さらに一地域で限られたテーマでの交流をめざす協会（東京・自由ヶ丘日仏協会、エクスへの奨学生派遣の活動）も出てきており、そうした身近で具体的な活動が教訓的でもありました。

フランス語の「再教育」

●「文化」の分科会では、アンドレ・シガノス文化参事官（元グルノーブル大学学長）が「グローバル化のなかでの日仏関係」というテーマで基調報告。グローバル化のなかで各国の独特の文化と生活が失われるのは悲しいことで、いまこそ文化的アイデンティティーが必要、とりわけ文化的記憶の維持のために言語のアイデンティティーが重要と強調されました。そして現代のフランス語の墮落（日本語だけではなかった!…筆者）についてふれ、最近フランスでは教育改革の一環として40年ぶりにフランス語の再教育が始まり、正しい文法、文学的テキストの朗読などが重視されていることが紹介されました。

蛇足ですが…

●紀州・徳川邸跡に建てられたというフランス大使館の見事さに、お上りさんは驚く。大使公邸は豪華というよりむしろ瀟洒な建物ですが、広大で手入れの行き届いた庭園がすばらしい。この世知辛い東京の真ん中でよくこれを維持していただいたと感激しました。大使招待のビュッフェの昼食がまた結構なものでした。実に美しく盛り合わされたすべての料理が、フォークを使わず刺してあるツマ楊枝でいただけるので楽です。しかもこれまで経験したビュッフェ料理で味わったことのない美味。シュンパーニュ、白、赤の葡萄酒もそれぞれぴったりの選択でした。さすが食文化の王国・フランス大使館!